



for Energy, for Environment

Photovoltaic Solution

Total Sanitation

Environmental Resources Development

2019年3月期 第1四半期 決算説明会

株式会社サニックス

2018年 8月10日

1. 2019年3月期 第1四半期 決算概況 P.3

2. 2019年3月期 通期 業績見通し P.18

【免責事項】

本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報による判断に基づくものです。従いまして、以下の要因をはじめとする様々な要因により、将来時点における実際の収益及び業績は、業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。

日本の景気動向、「再生可能エネルギーの固定買取制度」の動向および当該制度に関わる電力会社の動向、他の業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の当社の予測を超える様々な要因。

本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。

(注)

- ・ 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。
- ・ 営業利益、経常利益、当期純利益の“△”表記は、それぞれ営業損失、経常損失、当期純損失を表します。
- ・ 比率がマイナスあるいは1000%を超える値の場合「－」で表示しております。



for Energy, for Environment
Photovoltaic Solution
Total Sanitation
Environmental Resources Development

1. 2019年3月期 第1四半期 決算概況

第1四半期 連結決算概況

(単位：百万円)

	2018/3期	2019/3期				
	1Q実績	1Q実績	前年同期比	前年同期差異	計画	計画差異
売上高	12,098	11,733	97.0%	△ 365	11,393	+ 340
売上総利益	3,722	3,540	95.1%	△ 181	3,391	+ 149
(売上高売上総利益率)	30.8%	30.2%			29.8%	
営業利益	396	103	26.2%	△ 292	57	+ 46
(売上高営業利益率)	3.3%	0.9%			0.5%	
経常利益	292	154	52.8%	△ 138	33	+ 121
(売上高経常利益率)	2.4%	1.3%			0.3%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	209	111	53.2%	△ 97	△ 14	+ 125
(売上高四半期純利益率)	1.7%	0.9%			—	

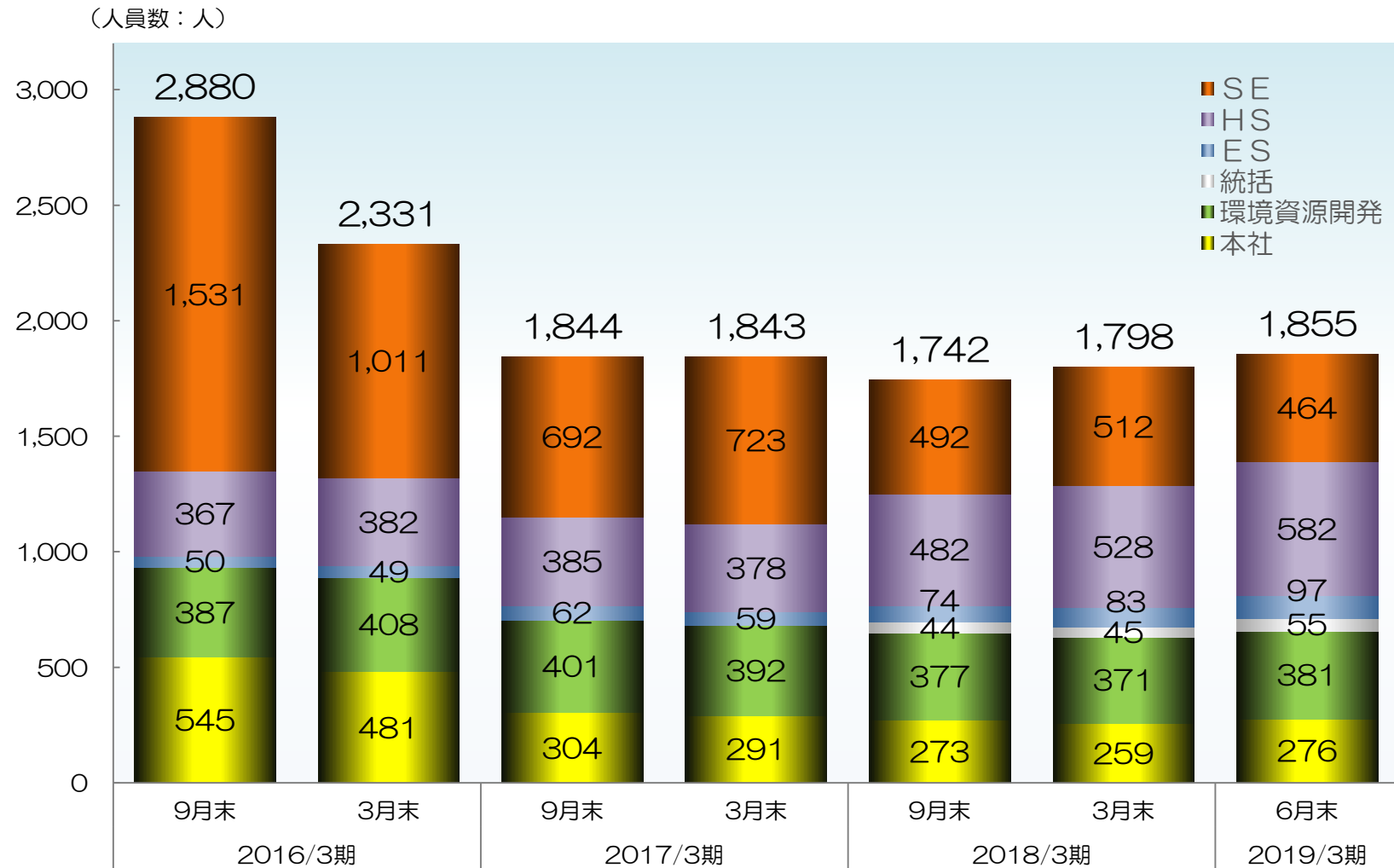
①売上高 人員等経営資源を配分し事業規模の拡大を進めたことによりH S事業部門、E S事業部門がそれぞれ増収となり、新電力事業に係る電力販売量が拡大したことにより環境資源開発事業部門が増収となった。その一方で、太陽光発電に係る市場規模縮小等の影響を受けS E事業部門は大幅な減収となった。この結果、グループ全体の売上高は11,733百万円（前年同期比3.0%減）となった。

②利益 増収を背景としてH S事業部門、E S事業部門、環境資源開発事業部門はそれぞれ増益となった。その一方で、減収幅が大きかったS E事業部門は大幅な減益となった。この結果、グループ全体の損益は、103百万円の営業利益（前年同期比73.8%減）、154百万円の経常利益（前年同期比47.2%減）、111百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益（前年同期比46.8%減）となった。

人員の状況

昨年に続き、事業部門間の資源配分バランスを考慮しS E事業部門からH S事業部門並びにE S事業部門へ人員の一部を異動した。

4月に新卒社員が約50名入社、全社員数は3月末比増加した。



※2018/3期の人員数は、2019/3期の組織体制と整合を取るよう、HS事業部門と統括部門で組替を行っております

第1四半期 セグメント別損益実績

(単位：百万円)

	2018/3期		2019/3期				
	1Q実績	売上比	1Q実績	売上比	前年同期比	計画差異	計画売上比
売上高	12,098		11,733		97.0%	+ 340	
SE部門	4,500	37.2%	2,779	23.7%	61.8%	Δ 36	24.7%
HS部門	2,329	19.3%	2,711	23.1%	116.4%	+ 114	22.8%
ES部門	310	2.6%	415	3.5%	133.8%	+ 23	3.4%
環境資源開発部門	4,957	41.0%	5,826	49.7%	117.5%	+ 238	49.0%
売上総利益	3,722	30.8%	3,540	30.2%	95.1%	+ 149	29.8%
販売費・一般管理費	3,325	27.5%	3,436	29.3%	103.3%	+ 102	29.3%
営業利益	396	3.3%	103	0.9%	26.2%	+ 46	0.5%
SE部門	442	(9.8%)	Δ 88	—	—	Δ 137	(1.7%)
HS部門	402	(17.3%)	580	(21.4%)	144.2%	+ 58	(20.1%)
ES部門	40	(12.9%)	52	(12.6%)	130.7%	+ 19	(8.4%)
環境資源開発部門	338	(6.8%)	439	(7.5%)	129.9%	+ 101	(6.0%)
配賦不能	Δ 826	—	Δ 880	—	—	+ 4	—

・各セグメントの営業利益の売上比は、各セグメントの売上高に対する比率を（ ）内に表示しております。

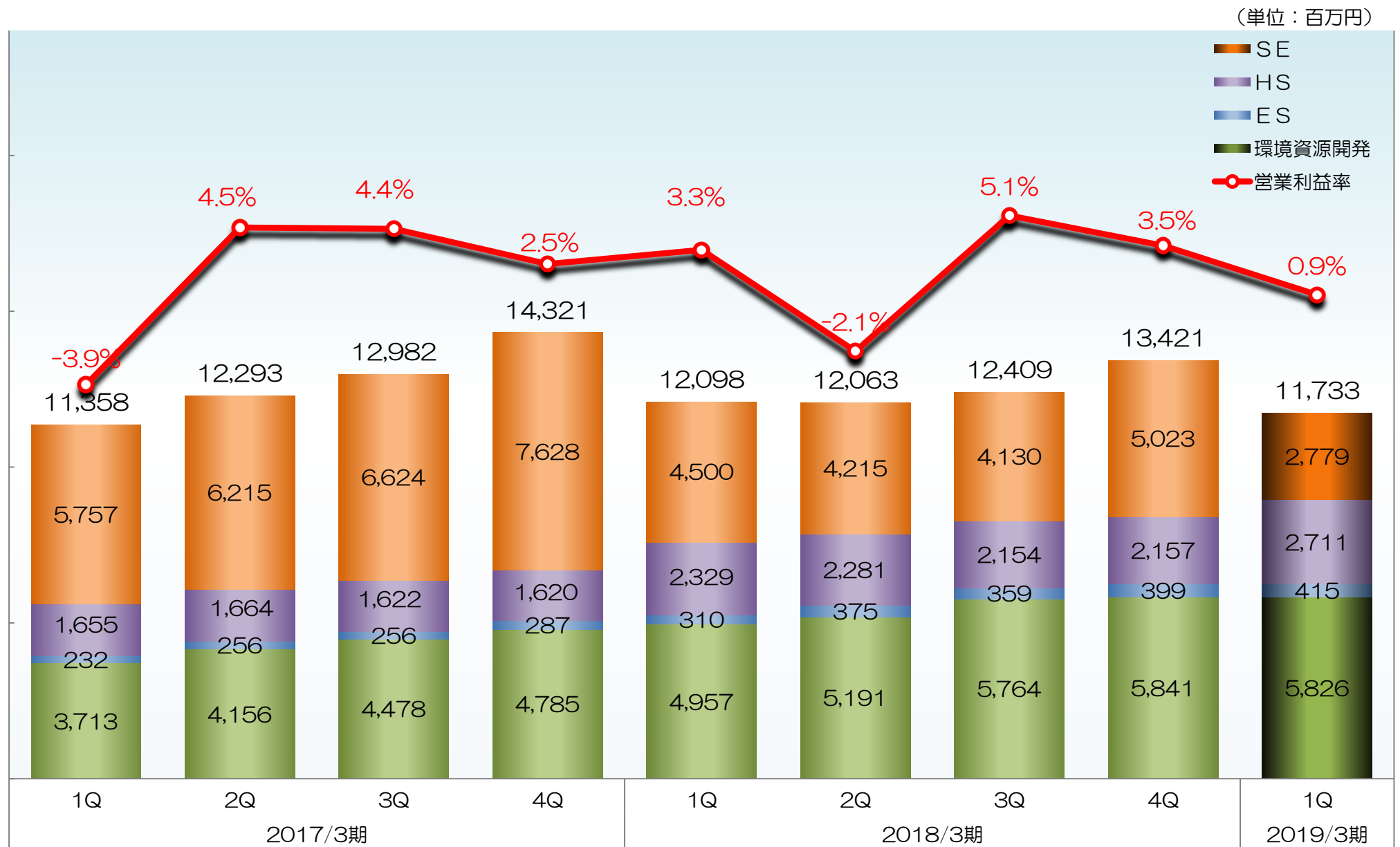
【参考】セグメント別四半期実績の推移

(単位：百万円)

			2018/3期								2019/3期	
			1 Q		2 Q		3 Q		4 Q		1 Q	
			実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比
売上高			12,098		12,063		12,409		13,421		11,733	
S E 部門			4,500	37.2%	4,215	34.9%	4,130	33.3%	5,023	37.4%	2,779	23.7%
H S 部門			2,329	19.3%	2,281	18.9%	2,154	17.4%	2,157	16.1%	2,711	23.1%
E S 部門			310	2.6%	375	3.1%	359	2.9%	399	3.0%	415	3.5%
環境資源開発部門			4,957	41.0%	5,191	43.0%	5,764	46.5%	5,841	43.5%	5,826	49.7%
売上総利益			3,722	30.8%	2,963	24.6%	3,735	30.1%	3,624	27.0%	3,540	30.2%
販売費・一般管理費			3,325	27.5%	3,220	26.7%	3,100	25.0%	3,151	23.5%	3,436	29.3%
営業利益			396	3.3%	△ 257	—	634	5.1%	473	3.5%	103	0.9%
S E 部門			442	(9.8%)	495	(11.8%)	409	(9.9%)	321	(6.4%)	△ 88	—
H S 部門			402	(17.3%)	347	(15.2%)	353	(16.4%)	367	(17.1%)	580	(21.4%)
E S 部門			40	(12.9%)	58	(15.6%)	31	(8.9%)	49	(12.4%)	52	(12.6%)
環境資源開発部門			338	(6.8%)	△ 395	—	559	(9.7%)	470	(8.0%)	439	(7.5%)
配賦不能			△ 826	—	△ 763	—	△ 719	—	△ 735	—	△ 880	—

・ 各セグメントの営業利益の売上比は、各セグメントの売上高に対する比率を（ ）内に表示しております。

セグメント別売上高の推移



第1四半期 セグメント別実績【SE事業部門】

(単位:百万円)

	2018/3期		2019/3期				
	1Q 実績	売上比	1Q 実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高合計	4,500		2,779		61.8%	2,816	
太陽光発電システム							
施工売上	4,147	92.2%	2,602	93.6%	62.7%	2,696	95.8%
卸販売	266	5.9%	114	4.1%	43.0%	90	3.2%
その他	86	1.9%	62	2.3%	72.7%	29	1.0%
売上原価	2,998	66.6%	2,018	72.6%	67.3%	1,919	68.1%
うち、材料費等※	1,901	42.3%	1,246	44.8%	65.5%	1,221	43.4%
うち、労務費	403	9.0%	269	9.7%	66.9%	266	9.4%
売上総利益	1,501	33.4%	761	27.4%	50.7%	897	31.9%
販売費・一般管理費	1,059	23.5%	849	30.6%	80.2%	848	30.1%
うち、人件費	439	9.8%	415	14.9%	94.6%	411	14.6%
その他	620	13.8%	434	15.6%	70.0%	436	15.5%
営業利益	442	9.8%	△ 88	—	—	49	1.7%

※材料費等は、材料費と消耗品費を合算しております。

「太陽光発電システム」が減収となった。太陽光発電における市場規模縮小による影響に加え、当第1四半期連結累計期間中において、F I Tの事業計画認定に想定以上の遅れがあり、全体的に後ズレする状況となった。この結果、売上高は2,779百万円(前年同期比38.2%減)と減収幅が大きくなった。

営業損益は、H S事業部門への人員の異動等により経費削減、材料原価の低減等を推進したが、減収による減益幅が大きく、88百万円の営業損失(前年同期は442百万円の営業利益)となった。

【参考】SE事業部門損益の四半期推移

(単位：百万円)

	2018/3期								2019/3期	
	1 Q		2 Q		3 Q		4 Q		1 Q	
	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比
売上高	4,500		4,215		4,130		5,023		2,779	
売上原価	2,998	66.6%	2,738	65.0%	2,813	68.1%	3,756	74.8%	2,018	72.6%
材料費等※	1,901	42.3%	1,757	41.7%	1,873	45.4%	2,758	① 54.9%	1,246	44.8%
労務費	403	9.0%	370	8.8%	351	8.5%	308	6.1%	269	9.7%
外注加工費	227	5.1%	196	4.7%	174	4.2%	301	6.0%	111	4.0%
その他	465	10.4%	414	9.8%	414	10.0%	387	7.7%	391	14.1%
売上総利益	1,501	33.4%	1,476	35.0%	1,316	31.9%	1,267	25.2%	761	27.4%
販売費・一般管理費	1,059	23.5%	980	23.3%	906	22.0%	946	18.8%	849	30.6%
人件費	439	9.8%	430	10.2%	424	10.3%	475	9.5%	415	14.9%
その他	620	13.8%	550	13.1%	481	11.7%	471	9.4%	434	15.6%
営業利益	442	9.8%	495	11.8%	409	9.9%	321	6.4%	△ 88	—

※ 材料費等は、材料費と消耗品費を合算しております。

- ① 2018/3期4Qの材料費等は、自社製パワコンコンディショナに係る棚卸資産の評価を見直した結果、棚卸資産評価損401百万円を計上した。当該評価損の影響を除いた場合の売上比は46.9%である。

第1四半期 セグメント別実績【HS事業部門】

(単位：百万円)

	2018/3期		2019/3期				
	1 Q 実績	売上比	1 Q 実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	2,329		2,711		116.4%	2,597	
白蟻防除施工	728	31.3%	925	34.1%	127.0%	875	33.7%
床下・天井裏換気システム	315	13.5%	411	15.2%	130.6%	366	14.1%
基礎補修・家屋補強工事	460	19.8%	571	21.1%	124.1%	537	20.7%
その他	825	35.4%	803	29.6%	97.3%	816	31.4%
売上原価	1,037	44.5%	1,074	39.6%	103.6%	1,119	43.1%
うち、労務費	301	12.9%	325	12.0%	107.8%	326	12.6%
売上総利益	1,292	55.5%	1,637	60.4%	126.7%	1,478	56.9%
販売費・一般管理費	890	38.2%	1,057	39.0%	118.8%	956	36.8%
うち、人件費	583	25.0%	647	23.9%	111.0%	578	22.3%
営業利益	402	17.3%	580	21.4%	144.2%	522	20.1%

HS事業部門の事業規模拡大を目的に異動等により人員増を図り、一般家屋に係るメンテナンス商品の提案をきめ細かく行い、営業及び施工体制を強化した。「白蟻防除施工」が前年同期比27.0%増、「床下・天井裏換気システム」が同30.6%増、「基礎補修・家屋補強工事」が同24.1%増となり、この結果、売上高は2,711百万円（前年同期比16.4%増）となった。

営業損益は、人員増により人件費等のコストが増加したものの、増収幅が大きかったことや、施工効率の改善や外注加工費率の低下などにより、580百万円の営業利益（前年同期比44.2%増）となった。

限界利益率・損益分岐売上高の推移

■SE事業部門の推移

	2018/3期				2019/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
限界利益率 (%)	48.4	49.2	46.3	43.7	44.1
月平均固定費 (百万円/月)	578	525	499	488	437
損益分岐売上高 (百万円/月)	1,193	1,067	1,078	1,118	985

2018/3期4Qの限界利益率については、材料費に含まれる棚卸資産評価損401百万円は除く。

■HS事業部門の推移

	2018/3期				2019/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
限界利益率 (%)	71.2	70.5	73.2	74.5	75.6
月平均固定費 (百万円/月)	399	412	403	407	489
損益分岐売上高 (百万円/月)	561	584	551	547	620

※売上高に占める変動費(材料費・外注加工費等)を除いた率を限界利益率として表示。

損益分岐売上高＝固定費÷限界利益率

第1四半期 セグメント別実績【ES事業部門】

(単位：百万円)

	2018/3期		2019/3期				
	1Q 実績	売上比	1Q 実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	310		415		133.8%	392	
売上原価	160	51.8%	199	48.1%	124.3%	212	54.1%
うち、労務費	41	13.5%	51	12.4%	122.9%	52	13.3%
売上総利益	149	48.2%	215	51.9%	144.0%	180	45.9%
販売費・一般管理費	109	35.3%	162	39.2%	148.9%	147	37.5%
うち、人件費	67	21.7%	100	24.1%	148.4%	93	23.9%
営業利益	40	12.9%	52	12.6%	130.7%	33	8.4%

ES事業部門の事業規模拡大を目的に異動等により人員増を図り、ビル・マンション等のオーナーに対する営業強化、管理会社等提携先の関係強化を図ることで、主力商品である「防錆機器取付施工（商品名：ドールマンショック）」が前年同期比104.2%増となり、この結果、売上高は415百万円（前年同期比33.8%増）となった。

営業損益は、人員増により人件費等のコストが増加したものの、増収幅が大きかったことや、施工効率の改善や外注加工費率の低下などにより、52百万円の営業利益（前年同期比30.7%増）となった。

第1四半期 セグメント別実績【環境資源開発事業部門】

(単位：百万円)

	2018/3期		2019/3期				
	1Q実績	売上比	1Q実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高合計	4,957		5,826		117.5%	5,588	
プラスチック燃料	1,835	37.0%	2,052	35.2%	111.9%	1,976	35.4%
売電収入	2,318	46.8%	2,996	51.4%	129.3%	2,832	50.7%
有機廃液処理	460	9.3%	409	7.0%	89.0%	451	8.1%
埋立処理	164	3.3%	203	3.5%	123.8%	157	2.8%
その他	179	3.6%	164	2.8%	91.3%	171	3.1%
売上総利益	778	15.7%	926	15.9%	119.1%	836	15.0%
販売費・一般管理費	439	8.9%	486	8.4%	110.7%	498	8.9%
営業利益	338	6.8%	439	7.5%	129.9%	338	6.0%

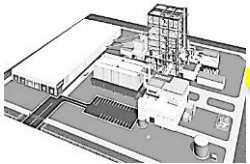
燃料化を目的とする廃プラスチック類の受入量が増加し「プラスチック燃料」が前年同期比11.9%増、新電力事業が拡大し「売電収入」が前年同期比29.3%増となった。この結果、売上高は5,826百万円（前年同期比17.5%増）となった。

営業損益は、プラスチック燃料について、廃プラスチック類の受入単価がアップし、燃料品質の向上及び効率性の改善により原価が低減し、また新電力事業による増収及び電力調達コストの安定化が寄与し、439百万円の営業利益（前年同期比29.9%増）となった。

【参考】当社の電力事業モデル

当社グループの電力取引について、新電力事業部を通することで、調達・供給の最適化を図る発電事業者からの調達が増えた結果、電力取引市場からの調達が減少し、調達コストの安定化が実現している

- ・発電事業者からの相対購入



- ・既設の産業用太陽光発電所



- ・電力取引市場（JEPX）



サニックス 新電力事業部

- ・販売電力量の拡大

（小売）

一般
需要家
（低圧/高圧）

（卸売）

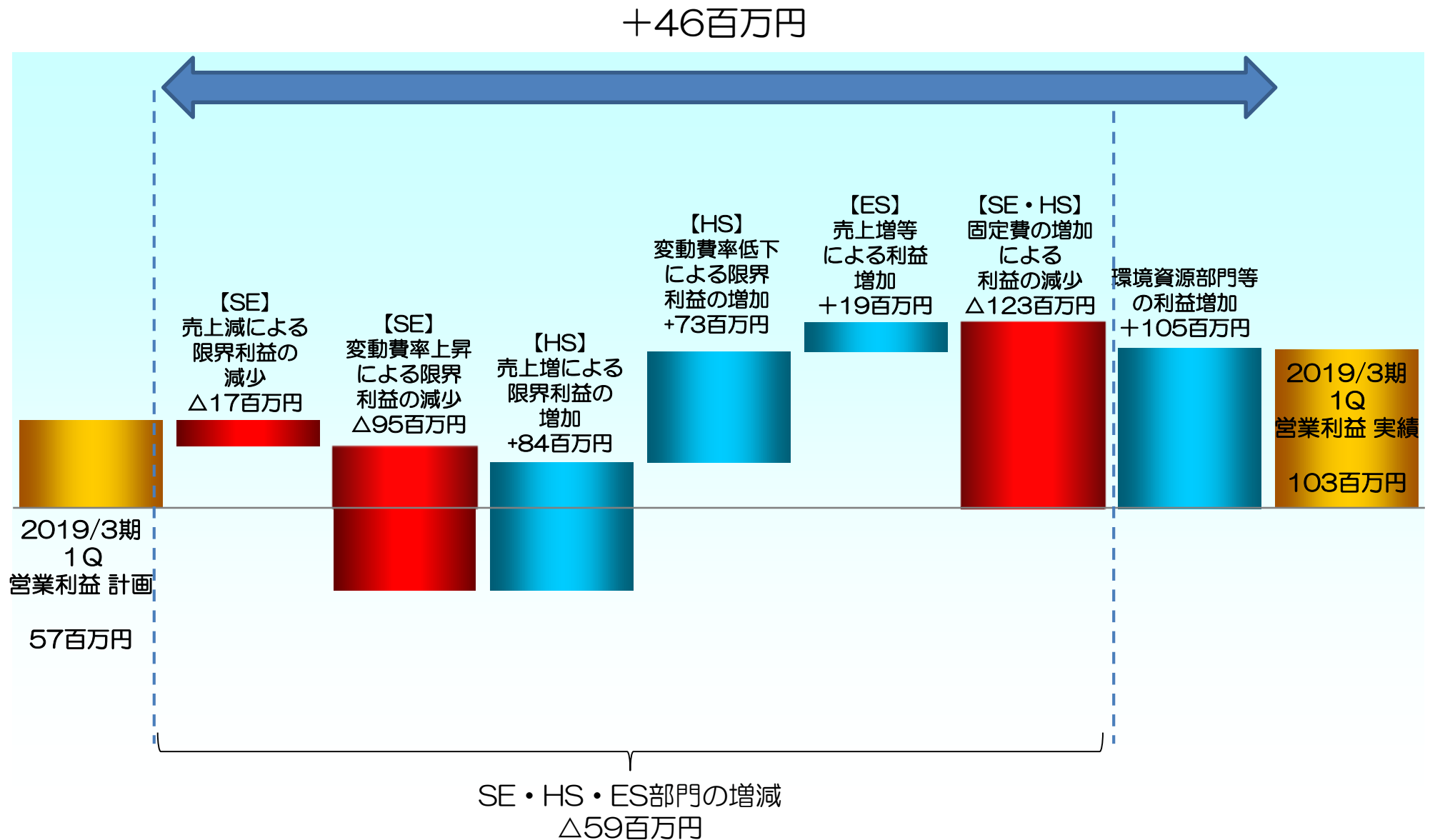
電力
事業者

サニックスグループ

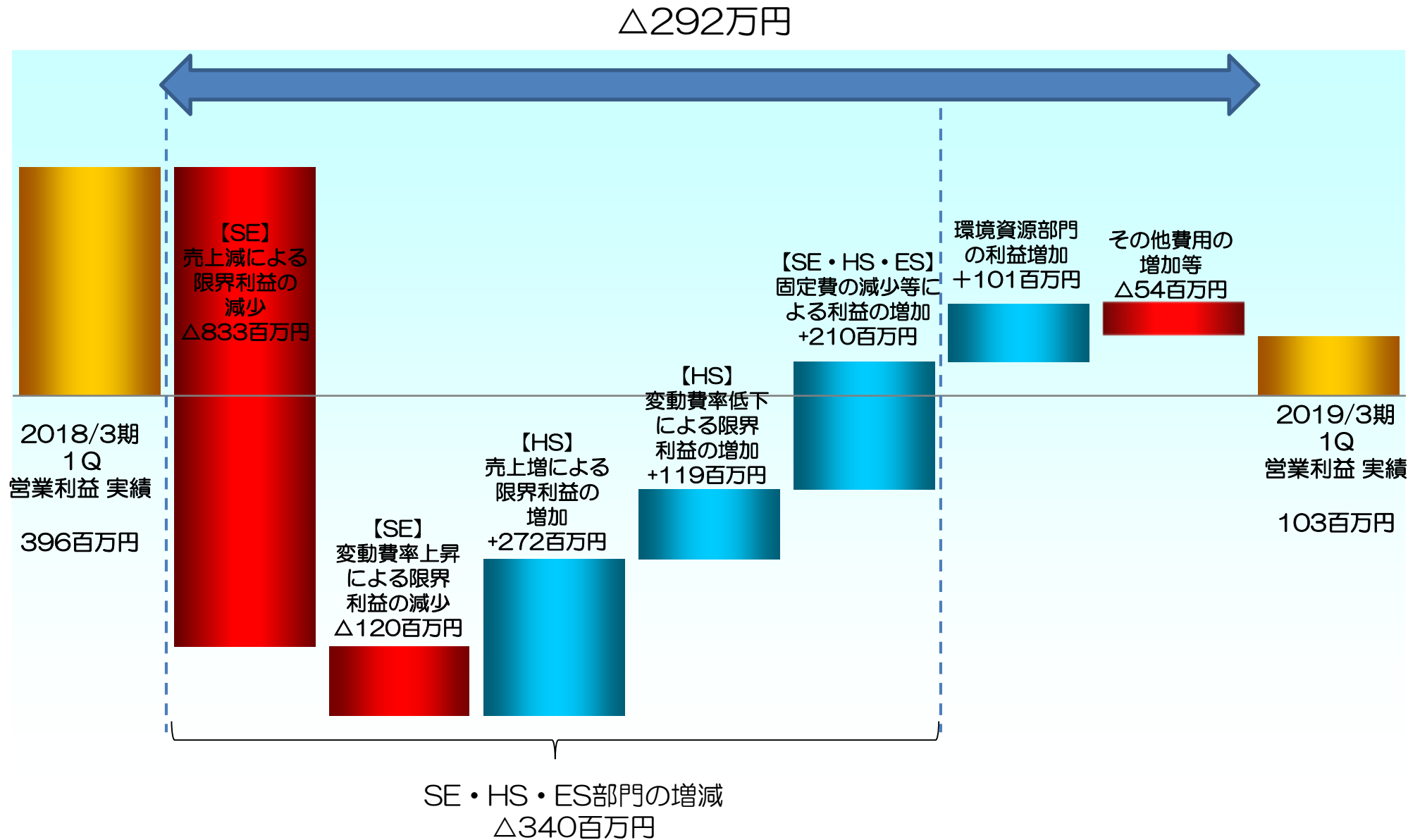
電力調達



【参考】営業利益 増減理由 (第1四半期_計画対実績)



【参考】営業利益 増減理由 (第1四半期_前期対今期)





for Energy, for Environment
Photovoltaic Solution
Total Sanitation
Environmental Resources Development

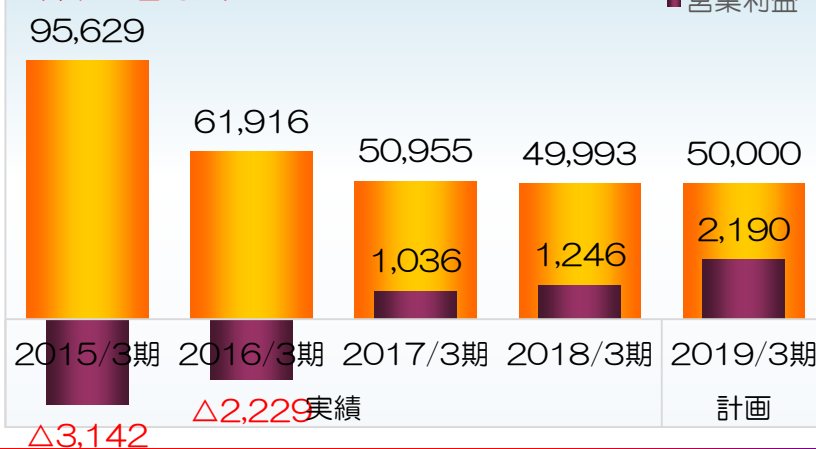
2. 2019年3月期 通期 業績見通し

2019年3月期 通期連結業績見通し

業績見通しは2018年5月14日に発表した計画から変更ありません。

(単位：百万円)

	2018/3期	2019/3期		
	実績	計画	前期比	前期差異
売上高	49,993	50,000	100.0%	+ 6
売上総利益	14,044	15,440	109.9%	+ 1,395
(売上高売上総利益率)	28.1%	30.9%		
営業利益	1,246	2,190	175.7%	+ 943
(売上高営業利益率)	2.5%	4.4%		
経常利益	1,019	2,100	206.0%	+ 1,080
(売上高経常利益率)	2.0%	4.2%		
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,180	1,610	136.4%	+ 429
(売上高当期純利益率)	2.4%	3.2%		

売上高・営業利益の推移
(単位：百万円)

2019年3月期の連結業績予想については、5月14日に公表した連結業績予想に変更はありません。

中期経営計画3年目の当期は、事業部間の人員の異動を引続き行い、持続的な黒字化、継続的な成長を引き続き図ることにより、4事業からの安定的な収益を実現していく。

2019年3月期 セグメント別業績見通し

業績見通しは2018年5月14日に発表した計画から変更ありません。

(単位:百万円)

2019/3期										
上半期			下半期			通期				
計画			売上比			前年同期差異				
計画			売上比			前年同期差異				
売 上 高	24,315			25,685			50,000			
S E 部 門	6,181	25.4%	Δ 2,535	7,384	28.7%	Δ 1,770	13,565	27.1%	Δ 4,305	
H S 部 門	5,280	21.7%	+ 668	5,140	20.0%	+ 828	10,420	20.8%	+ 1,497	
E S 部 門	841	3.5%	+ 155	843	3.3%	+ 83	1,684	3.4%	+ 239	
環境資源開発部門	12,013	49.4%	+ 1,863	12,318	48.0%	+ 711	24,331	48.7%	+ 2,575	
売 上 総 利 益	7,489	30.8%	+ 803	7,951	31.0%	+ 591	15,440	30.9%	+ 1,395	
販売費・一般管理費	6,621	27.2%	+ 74	6,629	25.8%	+ 377	13,250	26.5%	+ 451	
営 業 利 益	868	3.6%	+ 729	1,322	5.1%	+ 213	2,190	4.4%	+ 943	
S E 部 門	431	(7.0%)	Δ 506	1,077	(14.6%)	+ 346	1,508	(11.1%)	Δ 160	
H S 部 門	1,034	(19.6%)	+ 284	772	(15.0%)	+ 50	1,806	(17.3%)	+ 334	
E S 部 門	104	(12.4%)	+ 5	108	(12.8%)	+ 26	212	(12.6%)	+ 32	
環境資源開発部門	952	(7.9%)	+ 1,009	904	(7.3%)	Δ 125	1,856	(7.6%)	+ 883	
配 賦 不 能	Δ 1,653	—	Δ 62	Δ 1,539	—	Δ 84	Δ 3,192	—	Δ 146	
経 常 利 益	818	3.4%	+ 847	1,282	5.0%	+ 233	2,100	4.2%	+ 1,080	
親会社株主に帰属 する当期純利益	643	2.6%	+ 798	967	3.8%	Δ 368	1,610	3.2%	+ 429	

・各セグメントの営業利益の売上比は、各セグメントの売上高に対する比率を（ ）内に表示しております。

【参考】2019年3月期 セグメント別業績進捗状況

(単位:百万円)

		2018/3期		2019/3期						
		通期		1Q			通期			
		実績	売上比	実績	売上比	進捗率	計画	売上比	前期差異	
売	上	高	49,993		11,733		23.5%	50,000		+ 6
S	E	部 門	17,870	35.7%	2,779	23.7%	20.5%	13,565	27.1%	Δ 4,305
H	S	部 門	8,922	17.8%	2,711	23.1%	26.0%	10,420	20.8%	+ 1,497
E	S	部 門	1,444	2.9%	415	3.5%	24.7%	1,684	3.4%	+ 239
環境資源開発部門		21,755	43.5%	5,826	49.7%	23.9%	24,331	48.7%	+ 2,575	
売上総利益		14,044	28.1%	3,540	30.2%	22.9%	15,440	30.9%	+ 1,395	
販売費・一般管理費		12,798	25.6%	3,436	29.3%	25.9%	13,250	26.5%	+ 451	
営業利益		1,246	2.5%	103	0.9%	4.7%	2,190	4.4%	+ 943	
S	E	部 門	1,668	(9.3%)	Δ88	—	—	1,508	(11.1%)	Δ 160
H	S	部 門	1,471	(16.5%)	580	(21.4%)	32.1%	1,806	(17.3%)	+ 334
E	S	部 門	179	(12.5%)	52	(12.6%)	24.7%	212	(12.6%)	+ 32
環境資源開発部門		972	(4.5%)	439	(7.5%)	23.7%	1,856	(7.6%)	+ 883	
配賦不能		Δ3,045	—	Δ880	—	27.6%	Δ3,192	—	Δ 146	
経常利益		1,019	2.0%	154	1.3%	7.4%	2,100	4.2%	+ 1,080	
親会社株主に帰属する当期純利益		1,180	2.4%	111	0.9%	6.9%	1,610	3.2%	+ 429	

・各セグメントの営業利益の売上比は、各セグメントの売上高に対する比率を（ ）内に表示しております。

2019年3月期の課題と進捗

今期の課題

SE事業部門

- ・市場動向に適した体制の構築
- ・新たな販売方法の開発（土地付太陽光、蓄電池 等）

HS事業部門

- ・人員、拠点の増加
- ・新規顧客獲得

ES事業部門

- ・紹介案件増に向けアライアンスの拡大・強化
- ・ペストコントロールの拡充

環境資源開発事業部門

- ・廃プラスチック受入単価交渉の継続
- ・発電所の効率的な稼動、燃料品質の改善
- ・新電力事業の需要家拡大

本社部門

- ・業務改善に向けたシステム構築
- ・部門横断的なコスト削減

現在の進捗状況

- ・買取価格低下に対応するべく、原材料の低減、組織・人員体制の見直しにより、コスト対応は進んでいる。
- ・第2四半期に入り、遅れていた事業計画の認可が進み出したため、順次施工が進むものと思われる。

- ・主力の各商品がそれぞれ計画を上回っており、底上げがされている。
- ・新規顧客も前期に比べ増加している。
- ・店舗展開、8月2拠点稼動開始（九州地区2拠点）

- ・人員増加により顧客管理の強化を図り、前期に続き、防錆機器の販売拡大に大きな成果が出た。
- ・管理会社等のアライアンスの強化が図れている。

- ・単価改定を進めながら、廃プラスチック受入量は前期を上回り、増加傾向に回復している。
- ・新電力事業は、高圧需要家との契約見直しを図るとともに、新たな枠組みの進捗により、採算性の改善が進んでいる。

- ・営業面での、コスト削減・省力化・生産性向上を図るべく、書類の電子化、新システムの導入を進める。
- ・今後の経営及び事業戦略の策定、広報コミュニケーション力を強化すべく、企画本部を新設。

2019年3月期 セグメント別見通し【SE事業部門】

業績見通しは2018年5月14日に発表した計画から変更ありません。

(単位:百万円)

	2019/3期								
	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高合計	6,181		△ 2,535	7,384		△ 1,770	13,565		△ 4,305
太陽光発電システム									
施工売上	5,945	96.2%	△ 2,046	7,170	97.1%	△ 1,484	13,115	96.7%	△ 3,531
卸販売	180	2.9%	△ 396	180	2.4%	△ 270	360	2.7%	△ 666
その他	55	0.9%	△ 91	33	0.5%	△ 15	89	0.7%	△ 107
売上原価	4,043	65.4%	△ 1,694	4,588	62.1%	△ 1,982	8,631	63.6%	△ 3,677
うち、材料費等 ※	2,677	43.3%	△ 981	3,241	43.9%	△ 1,390	5,919	43.6%	△ 2,372
うち、労務費	485	7.8%	△ 288	439	5.9%	△ 220	924	6.8%	△ 509
売上総利益	2,138	34.6%	△ 840	2,796	37.9%	+ 211	4,934	36.4%	△ 628
販売費・一般管理費	1,707	27.6%	△ 333	1,719	23.3%	△ 134	3,426	25.3%	△ 467
うち、人件費	840	13.6%	△ 29	862	11.7%	△ 38	1,702	12.6%	△ 67
その他	866	14.0%	△ 304	856	11.6%	△ 96	1,723	12.7%	△ 400
営業利益	431	7.0%	△ 506	1,077	14.6%	+ 346	1,508	11.1%	△ 160

※材料費等は、材料費と消耗品費を合算しております。

FIT価格低下（18円/kWh）等の市場動向を踏まえた施工容量の減少、販売単価の低下などを背景に減収を見込む。
 これまでの主力である産業用太陽光発電に加え、住宅用太陽光発電・蓄電池の提案を強化するほか、土地付太陽光発電の提案など、新たな販売方法を開拓する。

SE事業部門におけるFIT設備認定の遅れは、当第2四半期連結累計期間以降、後ズレしている状況は徐々に解消していくものと見ている。

2019年3月期 セグメント別見通し【HS事業部門】

業績見通しは2018年5月14日に発表した計画から変更ありません。

(単位:百万円)

	2019/3期								
	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高	5,280		+ 668	5,140		+ 828	10,420		+ 1,497
白蟻防除施工	1,693	32.1%	+ 329	1,478	28.8%	+ 213	3,172	30.4%	+ 543
床下・天井裏換気 システム	750	14.2%	+ 114	737	14.4%	+ 119	1,488	14.3%	+ 233
基礎補修・ 家屋補強工事	1,078	20.4%	+ 167	1,251	24.3%	+ 205	2,330	22.4%	+ 372
その他	1,756	33.3%	+ 57	1,672	32.5%	+ 290	3,429	32.9%	+ 347
売上原価	2,293	43.4%	+ 205	2,272	44.2%	+ 384	4,565	43.8%	+ 589
うち、労務費	658	12.5%	+ 51	680	13.2%	+ 73	1,338	12.8%	+ 124
売上総利益	2,987	56.6%	+ 463	2,868	55.8%	+ 444	5,855	56.2%	+ 907
販売費・一般管理費	1,953	37.0%	+ 178	2,096	40.8%	+ 394	4,049	38.9%	+ 573
うち、人件費	1,206	22.8%	+ 74	1,370	26.7%	+ 297	2,576	24.7%	+ 372
営業利益	1,034	19.6%	+ 284	772	15.0%	+ 50	1,806	17.3%	+ 334

S E 事業部門からの異動等により増員を行い、顧客の掘り起こしを強化するとともに、既存顧客のアフター体制のより一層の拡充を図る。また、人員増を背景に、白蟻防除施工の増加を図り、住宅関連商品も増収を見込む。

利益については、業容拡大を図るための人員増等によって見込まれる固定費増を、増収により吸収し、増益に結び付ける。

2019年3月期 セグメント別見通し【ES事業部門】

業績見通しは2018年5月14日に発表した計画から変更ありません。

(単位:百万円)

	2019/3期								
	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高合計	841		+ 155	843		+ 83	1,684		+ 239
売上原価	440	52.3%	+ 85	438	52.0%	+ 37	878	52.1%	+ 122
うち、労務費	103	12.2%	+ 15	102	12.1%	+ 8	205	12.2%	+ 24
売上総利益	401	47.7%	+ 69	405	48.0%	+ 46	806	47.9%	+ 116
販売費・一般管理費	297	35.3%	+ 64	297	35.2%	+ 20	594	35.3%	+ 84
うち、人件費	188	22.4%	+ 44	189	22.5%	+ 19	378	22.4%	+ 64
営業利益	104	12.4%	+ 5	108	12.8%	+ 26	212	12.6%	+ 32

販路拡大に向けて提携先開拓を強化するとともに、マンション等のオーナーへの提案力を強化し、「防錆機器取付施工（商品名：ドールマンショック）」を中心に、増収を見込む。
 利益については、業容拡大を図るための人員増等の固定費増を見込むが、増収により吸収し、増益に結び付けていく。

2019年3月期 セグメント別見通し【環境資源開発事業部門】

業績見通しは2018年5月14日に発表した計画から変更ありません。

(単位:百万円)

	2019/3期								
	上半期			下半期			通期		
	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前年同期 差異	計画	売上比	前期差異
売上高合計	12,013		+ 1,863	12,318		+ 711	24,331		+ 2,575
プラスチック燃料	3,929	32.7%	+ 257	4,017	32.6%	+ 133	7,947	32.7%	+ 390
売電収入	6,520	54.3%	+ 1,641	6,710	54.5%	+ 493	13,230	54.4%	+ 2,134
有機廃液処理	919	7.7%	+ 29	1,006	8.2%	+ 147	1,925	7.9%	+ 176
埋立処理	310	2.6%	△ 49	257	2.1%	△ 37	567	2.3%	△ 87
その他	334	2.8%	△ 15	327	2.7%	△ 24	661	2.7%	△ 39
売上総利益	1,963	16.3%	+ 1,111	1,882	15.3%	△ 112	3,845	15.8%	+ 998
販売費・一般管理費	1,011	8.4%	+ 102	978	7.9%	+ 13	1,989	8.2%	+ 115
営業利益	952	7.9%	+ 1,009	904	7.3%	△ 125	1,856	7.6%	+ 883

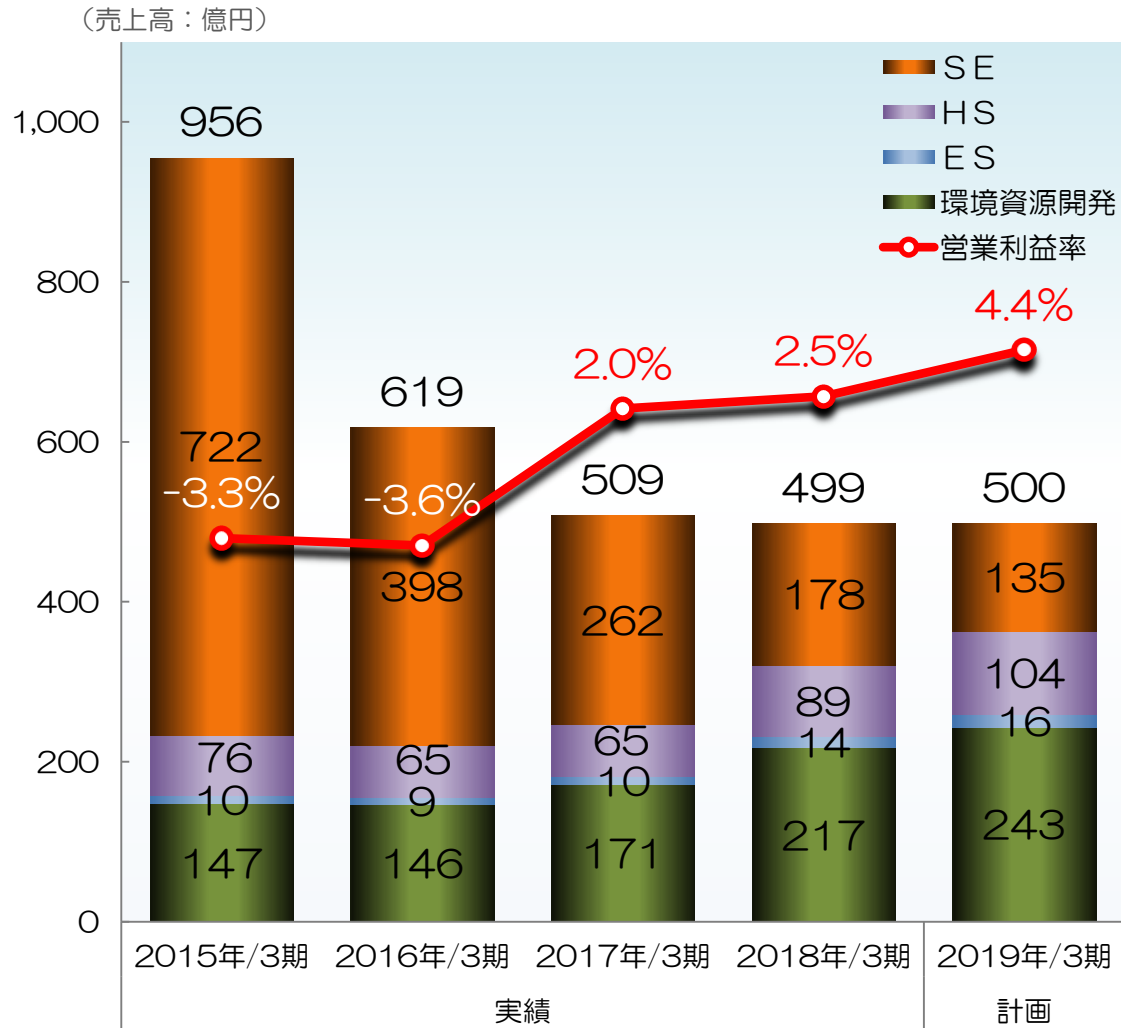
プラスチック燃料は、受入単価の改定を継続して進める一方、受入量の回復にも取り組み増収を図る。また、北海道の発電事業と本州で展開する新電力事業の新たな枠組みにより連携を強化する方針であり、電力事業全体での規模の拡大、コストの低下を図っていく。

利益については、増収に加え、新電力事業における電力調達コストの低下、および苫小牧発電所の法定点検がなく修繕費が減少することから、増益を見込む。

2019年3月期 全社見通し

業績見通しは2018年5月14日に発表した計画から変更ありません。

■2019年3月期セグメント別売上高・営業利益率の見通し



2019年3月期見通し

売上高： **50,000**百万円営業利益： **2,190**百万円営業利益率： **4.4%**